

夏の高校野球パーフェクトガイド2015

北海道・東北

関東

北信越

東海

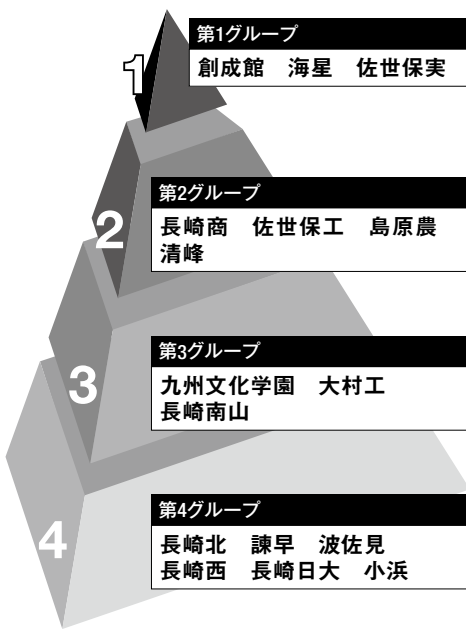
近畿

中国

四国

九州・沖縄

地区勢カピラミッド



秋季大会

佐世保工	4	1
九州文化学園	3	4
諫早	3	10
海星	2	5
波佐見	2	6
創成館	6	4
大村工	5	6
佐世保実	6	8

春季大会

長崎南山	5	0
清峰	3	3
長崎商	10	9
長崎北	8	2
佐世保実	8	1
諫早	1	5
島原農	2	1
海星	2	5

大会展望

創成館・海星・佐世保実の優勝争いか

秋に優勝した創成館、準優勝の海星が実力的には双璧で、ここに春を制した佐世保実が割って入った。タレントの枚数や経験、試合巧者ぶりからこの3校が優勝争いをリードすることは必至か。さらに昨春の優勝以降、県上位に定着した島原農、強打線で春準優勝の長崎商も差がなく続く。投打のバランスがいい長崎南山、佐世保工、九州文化学園あたりがトーナメントのカギを握る存在になりそう。清峰や長崎日大といった甲子園経験組、守備力のある昨夏8強の小浜も侮れない。

偉大な兄に続けるか、勝負の夏へ

長崎日大の大瀬良優人は昨季セ・リーグ新人王、大瀬良大地（広島）の弟。高校時代に甲子園出場を果たした兄と同じ長崎日大に進み、偉大な兄の背中を追いかける日々だ。やや暴れたストレートの伸びに素質の片鱗をのぞかせるが、春の初戦ではストライクを取ることに苦勞し、失点を重ねて敗退するなど開花したとはいえない。しかし、兄の大地は高校時代、この6月あたりから“奇跡”ともいえる急激な成長を遂げ、今に至っている。兄と同じ劇的な変化を弟・優人も見せることができるか。

注目選手



平湯蒼藍（海星）

永吉敦智（清峰）は勝負強い中距離打者だが、今季は飛距離が伸びてきた。坂本崇（島原農）は「単打ならいつでも打てる」といわんばかりにミートがうまい。

筆頭は今夏甲子園出場の平湯蒼藍（海星）だ。長崎海星シニア時代に日本代表の4番を任されたスラッガー。通算本塁打は、昨夏決勝での右中間弾や秋の2発などを含め30本目前。九州大会や甲子園で無安打が不思議なほど打球の強さや飛距離は群を抜いている。佐世保実の3番打者・池田盛一は九州大会の九州学院戦で一発を放った。177センチで65キロ

打者編

潜在能力の高い強打者たち

と線は細いが、計り知れないパワーが内蔵されているようだ。右の巧打者・中倉泰司と組むクリーンアップも、ライバルにとっては大きな脅威となってくるだろう。クリーンアップといえは、長崎商の3、4番も強力だ。3番の田原彰大は抜群のミート力と広角に打ち分ける技術、4番の山川晃太は強靱な体幹を軸としたスイングの強さが長所。巧打先行だった山川は、春の大会でビッグNスタジアムの右翼席に叩き込むなどパンチ力に磨きがかかっている。